

「トピックス」 令和7（2025）年度

第14回 「安芸太田町 第17回『立志式』」

立春の候、去る2月7日（土）、川・森・文化・交流センターを会場に、「第17回安芸太田町『立志式』」が実施されました。

「立志式」は、中学2年生という、子どもから大人へと心身が大きく成長する時期に、自分の人生を自分で切り拓いていこうとする意志を育む、大きな意味をもつ取組です。

来賓や保護者、地域の皆さまに見守られながら、31名の生徒一人一人が厳かな雰囲気の中で式に臨みました。

橋本博明町長からは、「大人になるとは何か」という問いかけとともに、年齢ではなく、支えられる側から支える側へと立場が変わっていくことの大切さについて祝辞がありました。今は多くの人に支えられている生徒たちも、やがては家族や地域、社会を支える存在になっていく。そのことを意識しながら、自分の将来を考えてほしいという言葉は、生徒たちの心に深く届いたことと思います。

また、来賓を代表して安芸太田町議会・津田宏副議長からは、失敗や困難を恐れず挑戦することの大切さについて、力強い励ましをいただきました。思うようにいかない経験や挫折こそが、人を強くし、成長させる糧となること、そして「あきらめずに挑み続ける姿勢」が未来を切り拓く力になることが語られました。

「生徒代表決意表明」では、それぞれの中学校を代表して2人の生徒が「志」を自分の言葉で発表しました。人の役に立ちたい、誰かを支える仕事に就きたい、自分らしさを大切にしながら夢を追い続けたい。その言葉の一つ一つからは、結果だけでなく、努力や挑戦の過程を大切にしようとする真摯な思いが伝わってきました。

講演会では、本町出身で陸上競技指導者の河野裕二先生より、「立志式を迎えた皆さんへ、伝えたい言葉の一つ一つ」と題してご講演いただきました。先生は、挑戦することの価値や、心の「根」を育てることの大切さを、数々の経験を交えながら語られました。中でも、「ありがとう」という感謝の言葉が人の心を育て、支え合う社会をつくるというお話は、生徒だけでなく、私たち大人にとっても改めて考えさせられるものでした。

今回の立志式は、生徒たちが自らの可能性を信じ、大人への第一歩を踏み出す大切な機会となりました。その歩みを支えるのは、学校や家庭や地域の温かなまなざしです。町民の皆さまとともに、子どもたちの「志」を見守り、育てていくことが、安芸太田町の未来につながると確信しています。

この日「立志式」を迎えた31名は、やがて一つ一つ違う「花」を咲かせることでしょう。その日を心待ちにして、皆さまとともに、若き「志」にエールを送り続けていければ幸いです。

安芸太田町教育委員会 教育長 大野 正人